

**令和4年度 川崎市強度行動障害支援力向上研修
(強度行動障害支援者養成研修【基礎研修】・【実践研修】) 学則**

社会福祉法人川崎市社会福祉協議会

1. 目的

行動障害を有する者のうち、いわゆる「強度行動障害」を有する者は、自傷、他害行為など、危険を伴う行動を頻回に示すことなどにより、日常生活に困難が生じているため、現状では事業所での受入れが消極的であったり、身体拘束や行動制限などの虐待につながる可能性も懸念されるところです。

一方、障害特性の理解に基づく適切な支援を行うことにより、強度行動障害が低減し、安定した日常生活を送ることができることが知られています。

このため、強度行動障害を有する方の地域移行及び地域生活に向けた取り組みとして強度行動障害に係る支援手法の浸透や、適切な支援を行う職員の人材育成を目的とした川崎市強度行動障害支援力向上研修（強度行動障害支援者養成研修【基礎研修】）を実施します。

また、強度行動障害のある方に対して、適切な支援計画を作成することが可能な職員の育成を目的とした川崎市強度行動障害支援力向上研修（強度行動障害支援者養成研修【実践研修】）を実施します。

2. 研修事業の名称等

名 称 : 川崎市強度行動障害支援力向上研修
(強度行動障害支援者養成研修【基礎研修】・【実践研修】)

事業者指定番号 : 第0002号

3. 研修実施場所

【基礎研修】・【実践研修】

名 称 : 総合研修センター 研修室

所 在 地 : 〒210-0024 川崎市川崎区日進町5-1 川崎市複合福祉センター2階

電話番号 : 044-223-6509

4. 研修期間

【基礎研修】令和4年度に4回実施します。

第1回 令和4年 6月16日（木）・17日（金）（2日間）

第2回 令和4年 7月21日（木）・22日（金）（2日間）

第3回 令和4年10月 6日（木）・ 7日（金）（2日間）

第4回 令和5年 1月19日（木）・20日（金）（2日間）

【実践研修】令和4年度に1回実施します。

令和4年11月17日（木）・18日（金） （2日間）

5. 研修カリキュラム及び講師氏名、演習計画（別紙参照）

6. 受講資格

次の（1）から（3）の要件をすべて満たす者

- （1）川崎市内に所在する障害福祉サービス事業所等において、知的障害、精神障害のある児者を支援対象にした事業に従事する者、もしくは今後従事する予定のある者
- （2）2日間すべての日程を受講できる者であること
- （3）所属している法人の推薦を受けた者
- （4）【実践研修】は強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）、もしくは重度訪問介護従事者養成研修、行動援護支援課程を修了した者

7. 受講手続（募集要項等）

ウェブサイト「障害福祉情報サービスかながわの「書式ライブラリー」→「3. 川崎市からのお知らせ」→「1. 川崎市からのお知らせ」に各回の募集要領（実施要領）を掲載し申し込み方法をお知らせします。申し込みは個人ではなく、所属する法人単位で申し込みをしていただきます。

8. 受講者の決定

- 定員を上回った場合には、推薦された方の中から、法人内優先順位を勘案し、申込の内容を審査した上で決定します。（先着順ではありません。）
- 行動援護業務に従事している方や従事しようとする方は、「行動援護従業者養成研修」をご受講ください。
- 受講決定については、各法人あてに通知をまとめて送付します。

9. 受講定員

【基礎研修】 各回 50 名

【実践研修】 40 名

10. 受講料及び資料代

【基礎研修・実践研修】受講料は無料です。ただし、受講に必要な教材費等（テキスト、講義資料、演習教材などを含む）10,000円は、受講者負担とします。支払方法等詳細は、受講決定とともにご案内します。

※会場までの交通費その他についても、受講者負担とします。

※お支払いいただいた教材費等は、いかなる理由があっても返金されません。

※【実践研修】受講の方 基礎研修と同じテキストを使用します。

テキストをお持ちで不要の方は受講決定後、事務局までご連絡ください。

テキスト代3,500円を引いた金額6,500円教材費としてご負担いただきます。

11. 使用テキスト

強度行動障害のある人の「暮らし」を支える

（強度行動障害支援者養成研修【基礎研修・実践研修】テキスト）

発行：中央法規出版社

監修：特定非営利活動法人全国地域生活支援ネットワーク

編集：牛谷正人・肥後祥治・福島龍三郎

映像教材（会場で視聴）

DVD強度行動障害のある人の「暮らし」を支える

（強度行動障害支援者養成研修【基礎研修・実践研修】教材

発行：中央法規出版株式会社

監修：特定非営利活動法人全国地域生活支援ネットワーク

制作：佐賀由彦事務所

12. 研修修了の認定方法

（1）公的機関発行の証明書等により受講者の本人確認を行い、全カリキュラムを受講した者に対して修了証明書を交付致します。なお本人確認方法については研修初日に下記の提示によって行います。

- ・住民票の写し
- ・住民基本台帳カード

- ・在留カード等
- ・健康保険証
- ・運転免許証
- ・パスポート
- ・年金手帳
- ・生活保護受給証明書
- ・国家資格等を有する者については、免許証又は登録証等

(2) 受講者がやむを得ない理由でカリキュラムの一部を受講しなかった場合は、補講の受講によって修了証明書を交付します。他の事業者が指定を受けた同一過程の研修において、該当科目を受講することで補講とします。その際は【基礎研修】は原則1ヶ月以内、やむを得ない場合2ヶ月以内に受講することとし、【実践研修】は原則2ヶ月以内、やむを得ない場合は4ヶ月以内に受講することとします。補講を受講した際には、別途受講料が発生する場合があります。

1 3. 個人情報の取り扱いについて

○研修を通して知り得た個人情報は、当該研修業務の運営以外に使用されることはありません。

○本研修の修了者は、強度行動障害支援者養成研修【基礎研修】【実践研修】の修了者名簿（修了証書番号、氏名、生年月日、所属等）として神奈川県に報告します。

1 4. その他

○遅刻及び早退は欠席とみなします。修了証書を交付できませんので、ご注意ください。通勤時間帯による混雑や天候等をご配慮の上、余裕を持ってご来場ください。

※遅刻は原則、遅れた時間の長さを問わず欠席としますので時間を厳守ください。

○著しく受講態度が悪く（私語、居眠り、携帯電話の使用等）、繰り返し注意された方には修了証書を交付できませんので、ご注意ください。

○受講にあたり、手話通訳、点字教材、身体障害者用駐車場等を使用する方は、受講申込書の所定欄に記載してください。

○来場の際は、公共交通機関をご利用ください。

○川崎市強度行動障害支援力向上研修の開講日に、自然災害（大雪等）及び事故等が発生した場合、開講しないまたは開始時刻を遅らせることがあります。その場合には、開講当日の午前8時30分までに、障害福祉情報サービスかながわ

（<http://www.rakuraku.or.jp/shienhi/>）及び社会福祉法人川崎市社会福祉協議会総合研修センターのホームページ（<http://www.kourei-c.jp/>）にその旨を掲載いたしますので、ご確認ください。

15. 研修に関する問合せ先

(本研修の申込手続き・実施等に関する問合せ先)

■社会福祉法人川崎市社会福祉協議会 総合研修センター

住 所：〒210-0024 川崎市川崎区日進町5-1 2階

電 話：044-223-6509

FAX：044-223-6598

担 当：梶田 鈴木

(本研修に関する問合せ先)

■川崎市健康福祉局 総合リハビリテーション推進センター 企画・連携推進課

住 所：〒210-0024 川崎市川崎区日進町5-1 2階

電 話：044-200-3197

FAX：044-200-3974

担 当：後藤 木下

講 師 一 覧 (基礎研修)

担当科目		氏 名	現 職	専任・兼任
講 義	1 強度行動障害がある者の基本的理解			
	①強度行動障害 の理解	さ の りょう 佐野 良 氏	社会福祉法人育桜福祉会 法人本部事務局	兼任
		あ さ の ともあき 阿佐野 智昭 氏	社会福祉法人青い鳥 川崎市発達相談支援センター	兼任
		きむら しげゆき 木村 重之 氏	社会福祉法人横浜やまびこの里 東やまたレジデンス	兼任
		すずき のりゆき 鈴木 謙之 氏	社会福祉法人育桜福祉会 いぬくら（生活介護）	兼任
	2 強度行動障害に関する制度及び支援技術の基礎的な知識			
	②研修の意義	きむら しげゆき 木村 重之 氏	社会福祉法人横浜やまびこの里 東やまたレジデンス	兼任
		すずき のりゆき 鈴木 謙之 氏	社会福祉法人育桜福祉会 いぬくら（生活介護）	兼任
		みつい ま ゆ み 三井 真由美 氏	川崎市健康福祉局障害保健福祉部 障害計画課	兼任
	③支援のアイデ ア	たかはし りゅうじ 高橋 隆志 氏	子ども自立支援生活センター	兼任
		うやま しゅういち 宇山 秀一 氏	横浜市発達障害者支援センター	兼任
		さ の りょう 佐野 良 氏	社会福祉法人育桜福祉会 法人本部事務局	兼任
	④チームプレイ の基本	すずき のりゆき 鈴木 謙之 氏	社会福祉法人育桜福祉会 いぬくら（生活介護）	兼任
		いいだ じゅんいち 飯田 純一 氏	社会福祉法人セイワ 障害者支援施設（入所）つばき寮	兼任
		さ の りょう 佐野 良 氏	社会福祉法人育桜福祉会 法人本部事務局	兼任
		あんざい たまき 安齋 環 氏	川崎市社会福祉事業団 川崎市柿生学園	兼任
	⑤実践報告	かんざき たつや 神崎 達也 氏	社会福祉法人育桜福祉会 小向このはな園	兼任

		さ の りょう 佐野 良 氏	社会福祉法人育桜福祉会 法人本部事務局	兼任
		たかはし りゅうじ 高橋 隆志 氏	神奈川県立子ども自立支援生活センター	兼任
		さかきばら だいき 榊 原 大樹 氏	社会福祉法人育桜福祉会 桜の風	兼任
		すずき のりゆき 鈴木 謙之 氏	社会福祉法人育桜福祉会 いぬくら（生活介護）	兼任
		たむら ゆうじ 田村 友志 氏	神奈川県立子ども自立生活支援センター	兼任
		あかつ きみひろ 赤津 公啓 氏	社会福祉法人横浜やまびこの里 東やまたレジデンス	兼任
		にのみや る み 二宮 瑠美 氏	社会福祉法人横浜やまびこの里 東やまたレジデンス	兼任
演 習	1 基本的な情報 収集と記録等の 共有	うきが い あきのり 浮貝 明典 氏	特定非営利活動法人 PDD サポートセンタ ーグリーンフォーレスト	兼任
		すずき のりゆき 鈴木 謙之 氏	社会福祉法人育桜福祉会 いぬくら（生活介護）	兼任
		いいだ じゅんいち 飯田 純一 氏	社会福祉法人セイワ 障害者支援施設（入所）つばき寮	兼任
	2 行動障害があ る者の固有のコ ミュニケーショ ンの理解	さ の りょう 佐野 良 氏	社会福祉法人育桜福祉会 法人本部事務局	兼任
		すずき のりゆき 鈴木 謙之 氏	社会福祉法人育桜福祉会 いぬくら（生活介護）	兼任
		きむら しげゆき 木村 重之 氏	社会福祉法人横浜やまびこの里 東やまたレジデンス	兼任
		きたがわ めぐみ 北川 恵 氏	社会福祉法人なごみ福祉会 夢花工房	兼任
	3 行動障害の背 景にある特性の 理解	うきが い あきのり 浮貝 明典 氏	特定非営利活動法人 PDD サポートセンタ ーグリーンフォーレスト	兼任
		すずき のりゆき 鈴木 謙之 氏	社会福祉法人育桜福祉会 いぬくら（生活介護）	兼任
		きむら しげゆき 木村 重之 氏	社会福祉法人横浜やまびこの里 東やまたレジデンス	兼任

演 習 補 助 者 一 覧 (基礎研修)

担当科目		氏 名	現 職	専任・兼任
演 習	1 基本的な情報 収集と記録等の 共有	かんだ やすあき 神田 靖章 氏	社会福祉法人川崎市社会福祉事業団 川崎市 柿生学園 園長	兼任
	2 行動障害があ る者の固有のコ ミュニケーショ ンの理解	いいだ じゅんいち 飯田 純一 氏	社会福祉法人セイワ 障害者支援施設（入所）つばき寮	兼任
		すずき のりゆき 鈴木 謙之 氏	社会福祉法人育桜福祉会 いぬくら（生活介護）	兼任
	3 行動障害の背 景にある特性の 理解	とみやま えつろう 富山 悦郎 氏	社会福祉法人三篠会 障害者支援施設みずさわ	兼任
		さ の りょう 佐野 良 氏	社会福祉法人育桜福祉会 法人本部事務局	兼任
		いもと けいこ 井元 圭子 氏	社会福祉法人川崎市社会福祉事業団 川崎市 くさぶえの家	兼任
		うちかわ ぎんや 内川 銀也 氏	社会福祉法人三篠会 川崎ラシクル	兼任
		あんざい たまき 安齋 環 氏	社会福祉法人川崎市社会福祉事業団 川崎市 柿生学園	兼任
		きたがわ めぐみ 北川 恵 氏	社会福祉法人なごみ福祉会 夢花工房	兼任
		たかすぎ まさひろ 高杉 昌宏 氏	社会福祉法人川崎聖風福祉会 かわさき地域生活拠点たじま	兼任
		ながた たかし 長田 貴志 氏	社会福祉法人育桜福祉会 桜の風	兼任

令和4年度 川崎市強度行動障害支援力向上研修（基礎研修）研修カリキュラム

1日目 9:30~17:10

プログラムNo	科目	開始	終了	min	内 容
受付		9:00	9:30		
開会		9:30	9:40	10	川崎市より挨拶 研修オリエンテーション
プログラム0	講義0_1	9:40	10:10	30	研修のねらい
プログラム1	講義 1	10:10	11:10	60	強度行動障害の理解 「支援の基本的な考え方 強度行動障害の状態 行動障害が起きる理由」
休憩		11:10	11:20	10	
プログラム2	講義 2	11:20	12:20	60	強度行動障害の理解「障害特性の理解」
昼休憩		12:20	13:20	60	
プログラム3	演習 1	13:20	15:20	120	強度行動障害の理解「困っていることの体験」
休憩		15:20	15:30	10	
プログラム4	講義 3	15:30	17:00	90	支援のアイディア「障害特性に基づいた支援」
プログラム0	講義0_2	17:00	17:10	10	本日のまとめ

2日目 9:00~18:00

プログラムNo	科目	開始	終了	min	内 容
受付		8:50	9:00	10	
プログラム0		9:00	9:05	5	2日目のねらい
プログラム5	演習 2	9:05	10:05	60	基本的な情報収集「行動を見る視点」
休憩		10:05	10:15	10	
プログラム6	演習 3	10:15	11:45	90	特性の分析「特性の把握と適切な対応」
昼休憩		11:45	12:45	60	
プログラム7	講義 4	12:45	13:45	60	チームプレイの基本「チームプレイの必要性」
休憩		13:45	13:55	10	
プログラム8	演習 4	13:55	14:55	60	チームプレイの基本「支援手順書に基づく支援の体験」
休憩		14:55	15:05	10	
プログラム9	講義 5	15:05	15:35	30	研修の意義①「行動障害」
		15:35	16:05	30	研修の意義②「虐待防止」
休憩		16:05	16:15	10	
プログラム10	講義 6	16:15	16:45	30	実践報告①「児童期の支援の実際」
		16:45	17:15	30	実践報告②「成人期の支援の実際」
プログラム11	講義 7	17:15	17:45	30	研修の意義「家族の気持ち」
閉会		17:45	18:00	15	川崎市より挨拶 修了証交付

川崎市強度行動障害支援力向上研修 (強度行動障害支援者養成研修【基礎研修】) 演習計画書

●演習について

- ・各演習におけるグループワークは1グループ最大8名とする。
- ・適切な進行や助言者として、各グループに補助者を1名配置し進行管理を行う。
- ・配置された補助者が講義などでグループを離れる際は、該当するグループの受講者に説明をしたうえで代理の補助者を配置し対応する。

●演習1「プログラム3 強度行動障害の理解 困っていることの体験」(120分) 演習計画 【実施方法】

「プログラム2 強度行動障害の理解 障害特性の理解」の講義内容について演習で体験的に理解する流れで実施。演習講師の進行により、グループごとにアイスブレイクと4種類の疑似体験、振り返りの話し合い、代表グループによる発表で共有することで、自閉スペクトラム症児者の障害特性からくる困っている感覚を体験的に理解する演習とする。

科目 プログラム3	分	内容	分担	使用ツール
「強度行動障害の理解 困っていることの体験」	15	演習解説・アイスブレイク	講師	ワークシート 個人用A4 グループ用A3
	15	体験Ⅰ 伝えられないもどかしさ	講師 ファシリテーター	
		体験Ⅱ 意味の分からない苦痛	講師 ファシリテーター	
	15	体験Ⅲ 見通しの持てない不安や 恐怖	講師 ファシリテーター	
		体験Ⅳ 感覚の特異性	講師 ファシリテーター	
	20	振り返り 個人ワーク・グループで の共有	ファシリテーター	
	20	発表	ファシリテーター 代表受講者	
	5	まとめ	講師	

グループワークは文具等の備品の共有を避け、記録はファシリテーターが担うことで接触感染予防に配慮する

●演習2「プログラム5 基本的な情報収集 行動を見る視点」(60分) 演習計画

【実施方法】

事前説明ののち、映像教材を用いて映像にある事例「田中さんの外出場面」を視聴し、実際の支援場面を想起する。

「行動チェックシート（アセスメント演習用）」を用いて、映像から該当する行動項目にチェックを入れ、支援の中で支援対象者の示す行動に着目することを体験する。

社会性の特性・コミュニケーションの特性・想像力の特性・感覚の特性のそれぞれについて映像を部分的に繰り返し視聴し、講師の解説に合わせて一つ一つ繰り返し確認することで「行動に注目することの重要性」と「注目の仕方（視点）」の理解につなげる。

科目 プログラム5	分	内容	分担	使用ツール
基本的な情報収集 行動を見る視点	5	演習説明	講師	・事例 田中さんの基本情報 資料 ・映像教材 DVD ・行動チェックシート（アセスメント演習用）
	10	事例概要説明 映像視聴	講師	
	10	社会性の特性に注目した行動観察 ・映像視聴・行動チェックシートへの記入	進行 講師 グループ進行 ファシリテーター	
	10	コミュニケーションの特性に注目した行動観察 ・映像視聴・行動チェックシートへの記入	進行 講師 グループ進行 ファシリテーター	
	10	想像力の特性に注目した行動観察 ・映像視聴・行動チェックシートへの記入	進行 講師 グループ進行 ファシリテーター	
	10	感覚の特性に注目した行動観察 ・映像視聴・行動チェックシートへの記入	進行 講師 グループ進行 ファシリテーター	
	5	まとめ	講師	
	60			

行動チェックシート（アセスメント演習用）はあらかじめチェックが入っているものを使用し、講師による手本を示しながらシートの活用方法を解説する。映像を視聴しながらチェックのついていない項目について受講者にもチェックしてもらう形で体験する。

●演習3「プログラム6 特性の分析 特性の把握と適切な対応」(90分) 演習計画

【実施方法】

講師の解説により、冰山モデルで考える考え方と冰山モデルシートおよび補助シート（行動チェックシート・特性確認シート・環境確認シート・強み確認シート）の関連性と使い方を理解する。映像教材を用いて事例「田中さんの公園での水遊び場面」を視聴し、課題となる行動「水遊びを止められて自傷する」行動について冰山モデルシートおよび補助シートを使用して特性の分析を個人ワークで体験する。

冰山モデルシートおよび補助シートを活用し、特性に合わせた適切な支援方法を導き出す体験をし、実際の支援場面での活用イメージを作る。

グループワークで共有し、チームで検討する有効性に気づく。

科目 プログラム6	分		内容	分担	使用ツール
「特性の分析 特性の把握と適切な対応」	90	5	演習全体の説明	講師	・行動チェックシート(冰山演習用) ・冰山モデルシート(A4個人) ・特性確認シート(冰山演習用) ・環境確認シート
		15	演習の説明 映像視聴	講師	
		10	個人ワーク 着目した行動「水遊びを止められて自傷をする」に対し、水遊びを止められない理由や止められて自傷する理由を特性から考える	ファシリテーター	
		4	演習の説明 冰山モデル「特性」の記入 環境のアセスメントについて補助シートを手がかりに解説	講師	
		5	個人ワーク 「水遊びを止められて自傷する」場面の環境要因について確認	ファシリテーター	
		1	まとめ	講師	
	45	5	演習の説明	講師	
		5	個人ワーク 「特性確認シートの支援のアイデア」を使用し	ファシリテーター	

			て事例田中さんの特性 に活用できそうな支援 のアイデアを検討		・特性確認シート(氷山演習 用) ・強み(ストレングス)確認シ ート ・氷山モデルシート(グルー プ用A3)
	10	グループワーク 個人で検討した内容の 共有しグループで支援 のアイデアを考える	ファシリテーター		
	5	演習の説明	講師		
	5	個人ワーク 「強み(ストレングス)確 認シート」を使用し、活 かせそうな強みに気づ く	ファシリテーター		
	10	グループワーク 個人で検討した内容の 共有しグループで活か せそうな強みを考え、 氷山モデルシートを完 成する	ファシリテーター		
	5	まとめ 動画視聴	講師		
	5	演習全体のまとめ	講師		

●演習4「プログラム8 チームプレイの基本 支援手順書に基づく支援の体験」

(60分) 演習計画

【実施方法】

外出場面での支援手順書と記録の様式を用い、事例「田中さん」の外出場面をロールプレイで体験する

演習3「プログラム6」で検討された田中さんの行動と背景の特性・支援のアイデアを根拠に作成された支援手順書に基づく支援の実際について学ぶ

支援の様子を的確に記録し、次につなげる支援記録を残すことを学ぶ

支援の同じ質を担保しながらさらに良い支援を組み立てていくための職場内連携を学ぶ

支援手順書や環境調整（構造化）のアイデアやわかりやすい手がかりの使い方を体験する

科目 プログラム8	分		内容	分担	使用ツール
「チームプレイの基本 支援手順書に基づく支援の体験」	60	20	演習説明 ロールプレイの解説と 配役の流れを理解する 活用する活動カード等 のグッズを紹介する 支援手順書を確認する	講師	・外出の支援手順書 (A4) ・ロールプレイチェック シート
		3	資料読み込み	講師	・活動カード(公園、お 茶、ごはん、家に帰 る)
		2	デモンストレーション	ファシリテーター	
		20	ロールプレイ 支援手順書に基づきグ ループホームから公園 に移動し、ベンチでお 茶を飲むまでのルート を想定し、研修のグル ープテーブルを3/4周 回る形で外出支援を行 う 途中、ブランコに立ち寄 り、水道の水遊びをす る場面を支援手順書通 り支援することで円滑 に回る	田中さん役:フ ァシリテーター 支援者役:受講 者 観察者役:受講 者 全ての受講者 が支援者役を 交代で体験する	・スケジュール台紙 ・タイマー ・お茶(ペットボトル) ・かばん(紙袋で代用) グループ会場表示用 プレート(A4) ・家(GH) ・ブランコ ・水道 ・ベンチ グループワーク用振り 返しシート
		25			

		5	グループワーク説明	
		10	振り返り 体験した感想を振り返り、支援手順書に基づく支援や記録について意見を交換する	進行 記録 ファシリテーター
		10	発表 他のグループの意見を聞き、学びを共有する	講師

講 師 一 覧 (実践研修)

担当科目		氏 名	現 職	専任・兼任
講 義	1 強度行動障害がある者へのチーム支援			
	①支援を組み立てるための基本	すずき のりゆき 鈴木 謙之 氏	社会福祉法人育桜福祉会 いぬくら（生活介護）	兼任
	②組織的なアプローチ	かじわら あきこ 梶原 明子 氏	川崎市総合リハビリテーション推進センター南部地域支援室	兼任
	2 強度行動障害と生活の組み立て			
	③実践報告	たかすぎ まさひろ 高杉 昌宏 氏	社会福祉法人川崎聖風福祉会 かわさき地域生活拠点たじま	兼任
演 習	1 障害特性の理解とアセスメント	さ の りょう 佐野 良 氏	社会福祉法人育桜福祉会 法人事務局	兼任
	①アセスメントの方法	うきかい あきのり 浮貝 明典 氏	特定非営利活動法人 PDD サポートセンターグリーンフォーレスト	兼任
	2 環境調整による強度行動障害の支援	さ の りょう 佐野 良 氏	社会福祉法人育桜福祉会 法人事務局	兼任
	②手順書の作成	うきかい あきのり 浮貝 明典 氏	特定非営利活動法人 PDD サポートセンターグリーンフォーレスト	兼任
	3 記録に基づく支援の評価	さ の りょう 佐野 良 氏	社会福祉法人育桜福祉会 法人事務局	兼任
	③記録の分析と支援手順書の修正	うきかい あきのり 浮貝 明典 氏	特定非営利活動法人 PDD サポートセンターグリーンフォーレスト	兼任
	4 危険対応と虐待防止	の さ き ひでつぐ 野崎 秀次 氏	社会福祉法人同愛会法人本部医療顧問	専任
	④関係機関との連携			

演 習 補 助 者 一 覧 (実践研修)

担当科目		氏 名	現 職	専任・兼任
演 習	1 障害特性の理解とアセスメント	さ の りょう 佐野 良 氏	社会福祉法人育桜福祉会 法人本部事務局	兼任
	2 環境調整による強度行動障害の支援	すずき のりゆき 鈴木 謙之 氏	社会福祉法人育桜福祉会 いぬくら（生活介護）	兼任
	3 記録に基づく支援の評価	いもと けいこ 井元 圭子 氏	社会福祉法人川崎市社会福祉事業団 川崎市くさぶえの家	兼任
	4 危険対応と虐待防止	きたがわ めぐみ 北川 恵 氏	社会福祉法人なごみ福祉会 夢花工房	兼任
		あんざい たまき 安齋 環 氏	社会福祉法人川崎市社会福祉事業団 川崎市 柿生学園	兼任
		たかすぎ きさひろ 高杉 昌宏 氏	社会福祉法人川崎聖風福祉会 かわさき地域生活拠点たじま	兼任
		とみやま えつろう 富山 悦郎 氏	社会福祉法人三篠会 障害者支援施設みずさわ	兼任
		ながた たかし 長田 貴志 氏	社会福祉法人育桜福祉会 桜の風	兼任
		いいだ じゅんいち 飯田 純一 氏	社会福祉法人セイワ 障害者支援施設（入所）つばき寮	兼任
		うちかわ ぎんや 内川 銀也 氏	社会福祉法人三篠会 川崎ラシクル	兼任

令和4年度 川崎市強度行動障害支援力向上研修（実践研修）研修カリキュラム

1日目 9:30~17:30

プログラムNo	科目	開始	終了	min	内 容
受付		9:00	9:30		
開会		9:30	9:40	10	川崎市より挨拶 研修オリエンテーション
プログラム0		9:40	10:00	20	研修のねらい
プログラム1	講義1	10:00	12:00	120	支援を組み立てるための基本「強度行動障害の支援に必要な知識」
昼休憩		12:00	13:00	60	
プログラム2	演習1	13:00	14:00	60	アセスメントの方法「具体的なアセスメントの方法」
休憩		14:00	14:10	10	
プログラム3	演習2	14:10	16:10	120	アセスメントの方法「障害特性に基づくアセスメント」
休憩		16:10	16:20	10	
プログラム4	演習3	16:20	17:20	60	手順書の作成「アセスメントに基づく支援手順書の作成（1）」
プログラム0		17:20	17:30	10	本日のまとめ 翌日ガイダンス

2日目 9:00~17:30

プログラムNo	科目	開始	終了	min	内 容
受付		8:50	9:00	10	
プログラム0		9:00	9:05	5	2日目のねらい
プログラム5	演習4	9:05	11:05	120	手順書の作成「アセスメントに基づく支援手順の作成（2）」
休憩		11:05	11:15	10	
プログラム6	演習5	11:15	12:45	90	記録の分析と支援手順書の修正「記録の方法・記録の分析と支援手順書の修正」
昼休憩		12:45	13:45	60	
プログラム7	講義2	13:45	14:45	60	組織的なアプローチ「組織的なアプローチの重要性」
プログラム8	講義3	14:45	15:15	30	実践報告「チームによる支援の実際」
休憩		15:15	15:25	10	
プログラム9	演習6	15:25	16:55	90	関係機関との連携「関係機関（医療機関等）との連携の方法」
プログラム10	演習7	16:55	17:15	20	研修全体の振り返り
閉会		17:15	17:30	15	川崎市より挨拶 修了証交付

川崎市強度行動障害支援力向上研修
(強度行動障害支援者養成研修【実践研修】)演習計画書

●演習について

- ・各演習におけるグループワークは1グループ最大8名とする。
- ・適切な進行や助言者として、各グループに補助者を1名配置し進行管理を行う。
- ・配置された補助者が講義などでグループを離れる際は、該当するグループの受講者に説明をしたうえで代理の補助者を配置し対応する。

●演習1「プログラム2 アセスメントの方法 具体的なアセスメントの方法」(60分)演習計画
【実施方法】

支援者が統一した支援を実施するために必要な、障害特性に合わせた支援手順書を作成するための根拠となるアセスメントの方法について学ぶ。
アセスメントに活用する各種様式の説明ののち、映像教材を用いて映像にある事例「田中さんの活動場面」を視聴し実際の支援場面を想起する。
「行動チェックシート」を用いて、映像から該当する行動項目にチェックを入れ、その行動を客観的に記録していく。

科目 プログラム2	分	内容	分担	使用ツール
アセスメントの方法 ・具体的なアセスメントの方法	10	演習説明	講師	・事例 田中さんの基本情報資料 ・映像教材DVD ・行動チェックシート
	10	事例概要説明 映像視聴	講師	
	8	社会性の特性に注目した行動観察・映像視聴・行動チェックシートへの記入	進行 講師 グループ進行 ファシリテーター	
	8	コミュニケーションの特性に注目した行動観察・映像視聴・行動チェックシートへの記入	進行 講師 グループ進行 ファシリテーター	
	8	想像力の特性に注目した行動観察・映像視聴・行動チェックシートへの記入	進行 講師 グループ進行 ファシリテーター	
	8	感覚の特性に注目した行動観察・映像視聴・行動チェックシートへの記入	進行 講師 グループ進行 ファシリテーター	
	8	演習まとめ	講師	

●演習2「プログラム3 アセスメントの方法 障害特性に基づくアセスメント」(120分)演習計画

【実施方法】

講師の解説により、冰山モデルで要因分析を行う考え方と冰山モデルシートおよび補助シートの関連性と使い方を理解する。映像教材を用いて事例「田中さんが作業中に自傷をする」を視聴して特性に合わせた適切な支援方法を導き出す体験をする。

演習を通して支援の根拠を明らかにし、経験則に偏った感覚的な支援ではなく本人の行動観察(事実)から障害特性を導き出し、ミスマッチとなる環境・状況を整理していく。また、具体的な支援を検討していく上では本人の強み(ストレングス)を活かしていく視点についても演習を通して学んでいく。

グループワークで共有し、チームで検討する有効性に気づく。

科目 プログラム3	分	内容	分担	使用ツール
アセスメントの方法 ・障害特性に基づくアセスメント	10	冰山モデルと補助シートの説明	講師	<ul style="list-style-type: none"> ・事例 田中さんの基本情報資料 ・映像教材DVD ・冰山モデルシート ・行動チェックシート ・特性確認シート ・環境確認シート ・強み確認シート ・支援のアイディア
	10	課題となる行動の確認	講師	
	7	個人ワーク 作業中に自傷するという行動と関連する特性をピックアップしていく ・社会性の特性	進行 講師 グループ進行 ファシリテーター	
	7	個人ワーク 作業中に自傷するという行動と関連する特性をピックアップしていく ・コミュニケーションの特性	進行 講師 グループ進行 ファシリテーター	
	7	個人ワーク 作業中に自傷するという行動と関連する特性をピックアップしていく ・想像力の特性	進行 講師 グループ進行 ファシリテーター	
	7	個人ワーク 作業中に自傷するという行動と関連する特性をピックアップしていく ・感覚の特性	進行 講師 グループ進行 ファシリテーター	
	10	グループワーク 個人ワークで整理したものをグループで共有	進行 講師 グループ進行 ファシリテーター	
	5	記入例を用いての解説	講師	
	5	行動に影響を与えている環境や状況を整理	講師	
	5	個人ワーク 環境確認シートで「作業中に自傷をする」ときの環境や状況を書き出す	進行 講師 グループ進行 ファシリテーター	

	5	グループワーク 個人ワークで整理したものをグループで共有	進行 講師 グループ進行 ファシリテーター
	5	支援のアイデアを整理する 個人ワーク 「特性確認シート」から、 特性に対応する支援のアイデアをピックアップする	進行 講師 グループ進行 ファシリテーター
	5	支援のアイデアを整理する グループワーク 個人ワークで整理したものをグループで共有	進行 講師 グループ進行 ファシリテーター
	7	強み(ストレングス)とは	講師
	5	強みを活かせるような場面の検討 個人ワーク	進行 講師 グループ進行 ファシリテーター
	5	強みを活かせるような場面の検討 グループワーク 個人ワークで整理したものをグループで共有	進行 講師 グループ進行 ファシリテーター
	10	発表 記入した氷山モデルシート の内容を発表	進行 講師
	5	まとめ	講師

●演習3「プログラム4 支援手順書の作成 アセスメントに基づく支援手順書の作成(1) (60分)演習計画

【実施方法】

支援者が統一した支援を実施するために必要な障害特性に合わせた支援手順書の作成方法について学ぶ。利用者のサービス提供プロセスにおいて、サービス等利用計画・個別支援計画・支援手順書、それぞれの連動性について学びを深めていく。

演習2で整理した冰山モデルシートを用いて、活動の手順を作り上げる。その際、活動の工程を分けるという視点を重視する。

科目 プログラム4	分		内容	分担	使用ツール
手順書の作成 ・アセスメントに基づく 支援手順書の作成(1)	60	25	各種支援計画と支援手順書のつながり	講師	・事例 田中さんの基本情報資料 ・映像教材DVD ・冰山モデルシート ・行動チェックシート ・特性確認シート ・環境確認シート ・強み確認シート ・支援のアイディア ・支援手順書、記録用紙
		10	個人ワーク 活動の工程を考える	進行 講師 グループ進行 ファシリテーター	
		20	グループワーク 田中さんの作業場面での工程を共有する	進行 講師 グループ進行 ファシリテーター	
		5	まとめ	講師	

●演習4「プログラム5 支援手順書の作成 アセスメントに基づく支援手順書の作成(2)
(120分)演習計画

【実施方法】

支援者が統一した支援を実施するために必要な障害特性に合わせた支援手順書の作成方法について学ぶ。活動の流れを工程に分け、工程ごとに本人の動きを想定する。支援を行う際には事前準備が重要であり、あらかじめの環境設定や支援ツール等の準備についても支援手順書に記入していく。

科目 プログラム5	分		内容	分担	使用ツール
手順書の作成 ・アセスメントに基づく 支援手順書の作成(2)	120	10	個人ワーク 工程ごとに本人の動きを 想定し、支援手順書に記 入する	進行 講師 グループ進行 ファシリテーター	<ul style="list-style-type: none"> ・事例 田中さんの基本 情報資料 ・映像教材DVD ・氷山モデルシート ・行動チェックシート ・特性確認シート ・環境確認シート ・強み確認シート ・支援のアイディア ・支援手順書、記録用紙
		15	グループワーク 場面ごとの想定される本 人の動きをグループで共 有し活動の手順を決める	進行 講師 グループ進行 ファシリテーター	
		20	個人ワーク 必要なサポートを根拠 に、当日までの準備・支 援者の動きや配慮・当日 の事前準備を記入する	進行 講師 グループ進行 ファシリテーター	
		40	グループワーク 必要なサポートを根拠 に、当日までの準備・支 援者の動きや配慮・当日 の事前準備についてグ ループで共有する	進行 講師 グループ進行 ファシリテーター	
		20	発表 完成した支援手順書の発 表	講師	
		15	まとめ	講師	

●演習5「プログラム6 支援手順書の作成 記録の分析と支援手順書の修正(90分)演習計画

【実施方法】

本人の障害特性に基づく支援手順書を作成し、手順書に基づいて支援を行い、記録をとっていく。
実際には、本人の障害特性に基づいた支援手順書を作成し運用していく中で支援の補正や補強が必要となる場面も出てくることが想定される。記録を根拠にし、どの部分に修正が必要となるのか、そのプロセス(PDCA)と修正手順を学ぶ。

科目 プログラム5	分	内容	分担	使用ツール
記録の分析と支援手順書の修正 ・記録の方法 ・記録の分析と支援手順書の修正	10	記録に基づく支援の振り返りについて説明	講師	<ul style="list-style-type: none"> ・事例 田中さんの基本情報資料 ・映像教材DVD ・支援手順書/記録用紙 ・支援手順書－修正用
	5	個人ワーク 動画を見て、支援手順書の「本人の様子」の欄に客観的事実を記録する	進行 講師 グループ進行 ファシリテーター	
	15	グループワーク 支援手順書の記録の共有をグループワークで行う	進行 講師 グループ進行 ファシリテーター	
	15	スキルの評価 動画視聴と解説	講師	
	20	グループワーク 支援手順書の記録の共有をグループワークで行う	進行 講師 グループ進行 ファシリテーター	
	10	発表 支援手順書の修正内容を発表	講師	
	5	動画視聴 修正後の様子	講師	
	10	まとめ	講師	

●演習6「プログラム9 関係機関との連携 関係機関(医療機関)との連携の方法 (20分)演習計画

【実施方法】

強度行動障害の状態像にある方を支援していく上では、医療機関等との連携・協力が必須となる。役割の違いを理解しながら相互に自分たちの専門性を活かし適切な支援を行っていく上で、どのような工夫が必要となるのかを考える。

科目 プログラム4	分		内容	分担	使用ツール
関係機関との連携 ・関係機関(医療機関等) との連携の方法	20	5	講師自己紹介 グループワークのポイント説明	全体司会	・医療機関等との連携 を考える(グループ ワークシート)
		10	グループワーク 「医療等との連携を図る 上で工夫していること」 「連携が難しいと感じる こと」についてグループ 内で意見を出し合う	進行 講師 グループ進行 ファシリテーター	
		5	発表	全体司会	

●演習7「プログラム10 研修全体の振り返り (20分)演習計画

【実施方法】

強度行動障害支援力向上研修(基礎・実践)を受講し、明日からの現場実践につなげていくための受講者同士の意見交流の時間とする。ファシリテーターも適宜介入し、支援のPDCAや冰山モデルシート、各種記録の工夫や重要性等について振り返る。

科目 プログラム4	分	内容	分担	使用ツール
研修全体の振り返り	20	グループワーク 強度行動障害支援力向上 研修(基礎・実践)を総括 し、現場実践につなげて いくための受講者同士の 意見交流の時間とする	ファシリテーター	